

いの流水俳壇

「大国様献句大会」

友草 水月選

台風の逸れし神意の雨光る

山本 呆齋

(評)折から台風18号が土佐沖に接近して通過し句会の最中は豪雨となり屋根を叩く雨と飛沫が白く光っていて、幸いに台風は神意により東に逸れて本県は被害を免れたのである。吟行句の臨場感溢れる句である。

恋みくじ色なき風に結びけり

東谷 晴男

(評)神仏に吉凶を占うお神籤、この恋は果たして叶うであろうか、吉と出るか、凶と出るか。恋の色はピンクであり、無色透明の風の中に結び、吉を祈るのである。夢多き若さの句である。(当日最高の9点句)

指先ににじむ入日よ紙を漉く

島村かりん

(評)町内でも最近では紙漉で生計を立てる家が数戸と少なくなつた。漉かれる紙は、ちぎり絵の紙、板画用の紙や襖紙、障子紙、芸術用紙がほとんどである。

紙を漉く簀笥を握る指先、紙床に重ねる指先に折りからの夕日が射し込んで指先が染まり、心技一体となつて紙を漉く姿は貴いものである。

結果を灯す真昼の曼珠沙華

佐々 誠也

(評)結果とは仏道修行をするために、その場所を区切り、修業の妨げとなるもの

出入りを禁ずることである。女人禁制とか。その禁制の土地にまわりを照らすように妖艶な曼珠沙華が真昼に咲き誇っている。結果と曼珠沙華の取り合わせが妙。

二句抄

水澄みて何故か懐かし紙の町

鎌倉 隆一

オガタマの梢に舞うかアゲハ蝶

山本 正男

神木の間にまた麓の雨

宇賀 佳世

朝ぼらけ宵と変らぬ草雲雀

間 浩太

秋暑し掃く音の澄む神の庭

大川 節弥

出水あと岸の柳の鶯一羽

森岡 照月

千古より宮灯消えず月満てり

井上 郁子

三番ホーム秋乗せた汽車入ります

岡本とも子

雨一過神苑秋を醸しけり

岡村 嘉夫

子等去りて仁淀に秋流れけり

山本 呆齋

秋の風鎮守の森を駆け抜ける

東谷 晴男

御詠歌に心を託す秋遍路

島村かりん

秋風を受け止めて阿吽の狗

佐々 誠也

参道を抜けて新涼鯉はねる

友草 水月

悔多く生きて悔なし秋日和

片岡 包女

読み返す文字美しく秋の夜

川村 博子

句碑ありて先人徳ぶ秋の雨

伊藤 秋甫

投句雑詠

注連縄を腰に大樹の苔の花

片岡 包女

寄進せる「夫婦もちの木」茂り初む

大根を蒔きて安堵の長電話

瓜立ちてお礼選びし秋の宮

城跡の色なき風と語りけり

新涼の牛の瞳に雲あふれ

鉄橋渡る一両列車天高し
清流に秋をちりばめ仁淀川 竹崎 光子
秋の目に合はせてやんまホバリング
平穏を感謝の心や盆の月 瀧田美智子

この俳句大会に寄せて 友草 水月

平成元年、元町長故井上長英氏が町の伝統をいかした町づくりの一環として肝入りで俳句大会を創設されました。当時琴平神社の境内にあった古い句碑群を現在のよう整備したのです。句碑は俳聖といわれる松尾芭蕉の句碑を含め10基あります。

春の夜は桜さくらで明けにけり 芭蕉
これらの句碑は今から162年前の嘉永5年に建立されたもので、いの町は土佐和紙発祥の地で藩政時代には御用紙として納められ、紙の販売、原料の取り引きなどと商業も発展して文化の水準も高く当時から俳諧も盛んであったのです。平成元年に始められた俳句大会は時を重ね、今年で25周年の節目を迎えたわけです。

清流仁淀川、伝統の土佐和紙、重要文化財で舞われる八代歌舞伎、千年を超え歴史を持つ根本神社など句材がたくさんあります。この自然や私たちの営みを観察し、その感性によって17文字にしてみませんか。
最近特に少子高齢化が進む中、新しく加入する者もなく残念に思います。今年大会の参加者は14名でしたが、かつては50名を越えた年もあり隔世の感があります。今後とも町民の皆さんのご声援をお願いします。

次 題 「当季雑詠」五句
締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課 いの町3597

電話 89312012

今月のごども川柳

いのちようは へいわなままだ きれいだね

川内小 1年 千田 みなみ

(評)自分の住む町が平和できれいと言える二年生がすてき。この気持ちを大切に大きくなってほしいです。

太陽が ぎらぎらてらす 暑い夏

長沢小 4年 川村 みずほ

(評)今年の夏は暑かったですね。照りつける太陽を「ぎらぎら」、終わりの「暑い夏」とも上手に詠んで、暑さが伝ってくる表現がよいです。

よくかんで あごのきんにく きたえるよ

長沢小 3年 山中 ゆうや

友だちが とおくへ行っても 友だちだ

伊野小 4年 中岡 愛美

夏休み いいこといっぱい あるのかな

長沢小 3年 山崎 こうき

パソコンと どうちゃんずっと にらめっこ

長沢小 4年 増井 咲良

めだかさん およくのじょうず たのしそう

川内小 5年 大久保 なみ

ともだちが こまっていたら たすけよう

伊野小 3年 彼末 珠実伶

夏が来て セミがミンミン 歌い出す

川内小 6年 矢野 花音

ゆうひはね いつでもきれいな すこいよね

伊野小 3年 井上 千愛

※選評は川柳連会の皆さんにお願いしています。おわり

広報9月号に掲載の「このほり かつこ いいな のりたいな」の作者は、川内小1年にしむらきえいくんの間違いでした。おわびして訂正します。